

第6節 市民参画

1 町民意識調査

次期総合計画の策定にあたり、野々市町の現状と問題点、まちづくりに対する町民の評価・意向などを把握し、町民と行政が一体となった新しいまちづくりを進めていくために、アンケートを実施しました。

有効な回答者数は町民が1,914名、中学生・担い手が1,089名、野々市町出身者が37名であり、有効回収率は町民が46.7%、中学生・担い手が82.8%、野々市町出身者が71.2%となりました。

調査方法などは、以下のとおりです。

調査対象：①町民 ②中学生 ③担い手 ④野々市町出身者

調査方法：①・③・④郵送による発送回収

②中学校を通じ、直接配布回収

調査日：平成21年1月20日から1月31日まで

調査票の配布回収数

対象者	配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
町民	4,100	1,935	1,914	46.7%
中学生・担い手	1,315	1,143	1,089	82.8%
出身者	52	38	37	71.2%
合計	5,467	3,116	3,040	55.6%

1 住民アンケート調査結果の概要

【住みよさ・定住意向】

町のイメージは、「便利な町」「明るい町」などがプラス評価（そう思う、ややそう思う）となっている一方、「有名な町」「個性ある町」がマイナス評価（さほど思わない、そう思わない）となっています。

住みよさについては、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」を合わせて9割以上を占めており、「今の場所に住み続けたい」も約8割を占めています。

転居したいとする方の理由は、「交通が不便だから」「生活・住環境が悪い」「老後の生活が不安だから」となっています。

【将来のまちイメージ・重点分野】

まちの将来像は「住宅街を中心としたまち」「商店街の近代化などによる商業の盛んなまち」が半数以上を占めています。

まちづくりの重点分野では、「福祉の充実」「バスなどの公共交通の充実」「健康づくりなどの保健医療の充実」が求められています。

【福祉・健康・医療】

福祉・健康・医療の充実度は、「定期健診などの健康診査」や「保育所などの児童福祉施設」などがプラス評価ですが、「休日・夜間などの救急医療体制」がマイナス評価となっています。

健康づくりや医療体制については、「休日・夜間でも診療の受けられる救急医療体制の充実」「人間ドック・がん検診など健康診査の充実」が求められています。

高齢者福祉対策では、「寝たきり、ひとり暮らし老人世帯などへの在宅サービスの充実」「老人ホームなど入所施設の整備」が求められています。

【産業の振興】

地域産業の振興及び支援施策として、「商業・サービス業の振興」「農業の振興」が求められています。

【教育や文化の向上、生涯学習】

青少年の健全育成については、「家庭教育を大切にし、しっかりとしつける」「学校での道徳教育を充実する」ことが求められています。

生涯学習活動では、「住民の学習・文化・スポーツなど活動施設の整備」「施設の利用時間や管理体制など施設利用の利便化」が求められています。

国際交流では、「国際感覚を持った青少年を育成する」「町内に居住する外国人との交流を促進する」「外国人との交流を促進する」ことが求められています。

情報化対策では、「インターネットによる情報提供や情報発信」「CATVやCSなど、TVによる情報提供」が求められています。

【行政運営と住民参加】

行政運営への要望として、「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」「住民福祉サービス面の充実」「行政職員の資質向上」が求められています。

行政情報については、「福祉・保健」「防災・救急」「税金・保険関係」が求められています。参加したいまちづくり活動は、「美しいまちをつくるための花いっぱい運動や清掃活動」「資源のムダをなくし地球環境を守るリサイクル活動や省資源活動」となっています。

2 中学生・担い手アンケート調査結果の概要

【住みよさ・定住意向】

町のイメージは、「明るい町」「豊かな町」がプラス評価（そう思う、ややそう思う）となっている一方、「有名な町」がマイナス評価となっています。

住みよさについては、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」を合わせて約9割を占め、「買物や飲食が便利」「バスなどの交通機関が便利」を住みよい点として挙げています。

一方、住みにくいと感じる点については「自然が少ない」「交通事故や犯罪が多くて危険」「娯楽施設が少ない」となっています。

定住志向は、「県外に移りたい」が約3割を占めており、今の場所から移りたい理由は「自分のめざす仕事（職場）がないから」「新しい物や情報が不足しているから」を挙げています。

豊かさとして、「快適で便利な暮らし」「恵まれた自然」が約半数、「家族や友人、近所づきあいなど、恵まれた人間関係」を挙げています。

【将来のまちイメージ】

「便利で快適に暮らせるまち」「自然と共生する美しいまち」が求められています。

【特に取り組むべきまちづくりの分野】

「自然保護、公害防止対策の充実」「教育・文化・スポーツの振興」「市街地や商店街の整備」が求められています。

3 野々市町出身者アンケート調査結果の概要

【住みよさ・定住意向】

転出のきっかけは、「就職のため」が約半数を占め、転出を決意された動機では、「自分の希望する仕事（職場）がないから」が約半数を占めています。

町のイメージは、「豊かな町」「自慢できる町」などがプラス評価となっている一方、「有名な町」「個性ある町」がマイナス評価となっています。

【町の将来に期待するもの】

町の将来に期待するものとして、「教育・文化・スポーツなどの水準が高いまち」「健康で安心して暮らせるまち」が求められています。

地産地消の振興で力を入れるべき点では、「地域素材を生かした加工産業の育成」「農業の振興」が求められています。

町で暮らす場合に重要なこととして、「保健・医療・福祉などの充実」「良好な生活環境の確保」が求められています。

2

職員意識調査

調査目的は、以下のとおりです。

- ①次期総合計画策定に関して、全職員の参加意識向上を狙うもの
- ②総合計画21を見直す機会を提供するもの
- ③住民アンケート結果によるニーズと職員認識の格差の有無を確認するため
- ④直接的に次期総合計画策定に関わらない職員の意見を次期計画に反映させるため

有効な回答者数は283名であり、有効回収率は61.3%となりました。

調査方法などは、以下のとおりです。

調査対象：野々市町職員（職員：313人、嘱託職員：149人、合計：462人）

調査方法：庁内イントラネットを利用

調査日：平成21年7月15日から7月24日まで

調査票の配布回収数

項目	配布・回収状況
配布数	462
回収数	290
有効回答数	283
有効回収率	61.3%

職員アンケート調査結果の概要

【住みよさ・定住意向】

町のイメージは、「便利な町」「明るい町」などがプラス評価（そう思う、ややそう思う）となっている一方、「有名な町」「個性ある町」がマイナス評価（さほど思わない、そう思わない）となっています。

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」を合わせて9割以上を占めており、「今の場所に住み続けたい」も約8割を占めています。

転居したいとする方の理由は、「生活・住環境が悪い」「交通が不便だから」「老後の生活が不安だから」となっています。

【将来のまちイメージ・重点分野】

まちの将来像は、「住宅街を中心としたまち」「商店街の近代化などによる商業の盛んなまち」がよいと考えており、まちづくりの重点分野では「バスなどの公共交通の充実」「福祉の充実」「街並み景観や緑化など美しいまちづくり」が必要と考えています。

重点分野は、住民と比べ「公園や広場、遊び場の整備」「街並み景観や緑化など美しいまちづくり」に対する評価が高く、「健康づくりなどの保険医療の充実」「福祉の充実」に対する評価が低くなっています。

【福祉・健康・医療】

福祉・健康・医療の充実度は、「定期健診などの健康診査」「保育所などの児童福祉施設」などが高い評価であり、住民と比べ全般的に評価が高く、特に「一人親家庭の福祉」「医療施設の整備」「健康づくりなどの保健活動」の評価が高くなっています。

健康づくりや医療体制については、「休日・夜間でも診療の受けられる救急医療体制の充実」「人間ドック・がん検診など健康診査の充実」が必要と考えており、住民と比べ「温泉を利用した療養施設の整備」に対する評価が低くなっています。

高齢者福祉対策では、「寝たきり、ひとり暮らし老人世帯などへの在宅サービスの充実」「老人ホームなど入所施設の整備」が必要と考えています。

【産業の振興】

「商業・サービス業の振興」「農業の振興」が必要と考えており、住民と比べ「工場など新たな企業の誘致」に対する評価が低くなっています。

支援施策として「後継者育成施策」「技術向上の支援・援助の強化」が必要と考えています。

【教育や文化の向上、生涯学習】

青少年の健全育成については、「家庭教育を大切にし、しっかりとしつける」「不健全な社会環境を浄化する」が必要と考えており、住民と比べ「学校での道徳教育を充実する」に対する評価が低くなっている一方、「地域ぐるみの啓発・研修を行う」が高くなっています。

生涯学習活動では、「住民の学習・文化・スポーツなど活動施設の整備」「施設の利用時間や管理体制など施設利用の利便化」が必要と考えており、住民と比べ「施設の利用や講座・サークルなどに関する各種情報提供の充実」に対する評価が低くなっています。

国際交流では、「国際感覚を持った青少年を育成する」「外国人との交流を促進する」「町内に居住する外国人との交流を促進する」「外国人との交流を促進する」が必要と考えています。

情報化対策では「インターネットによる情報提供や情報発信」「CATVやCSなど、TVによる情報提供」が必要と考えており、住民と比べ「インターネットによる情報提供や情報発信」に対する評価が高くなっています。

【行政運営と住民参加】

行政運営では、「住民福祉サービス面の充実」「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」「行政職員の資質向上」を必要と考えています。

行政情報の取得については、「福祉・保健」「防災・救急」「税金・保険関係」が必要と考えています。

まちづくり活動では、「美しいまちをつくるための花いっぱい運動や清掃活動」「資源のムダをなくし地球環境を守るリサイクル活動や省資源活動」に参加しやすいと考えています。

3 パブリックコメント

次期総合計画を策定するにあたり、住民の皆さまから広くご意見、ご提言をお伺いするため、2回のパブリックコメントを実施しました。

【基本構想(案)に対するご意見・ご提言】

実施期間	平成23年1月17日から2月16日まで
計画書の閲覧場所	町ホームページ・庁舎インフォメーションカウンター 総務企画課窓口・町立図書館窓口
ご意見などの提出の方法	郵送・FAX・電子メール・持参
募集の結果	4名 58件

【基本計画(案)に対するご意見・ご提言】

実施期間	平成23年7月11日から8月12日まで
計画書の閲覧場所	町ホームページ・庁舎インフォメーションカウンター 総務企画課窓口・町立図書館窓口
ご意見などの提出の方法	郵送・FAX・電子メール・持参
募集の結果	ご意見、ご提言はありませんでした

